

対ロシア、ガスにまつわる戦い キエフの危険な賭け

ウクライナ危機。その背景には、複雑なウクライナとロシアの歴史がある。ここでは、エネルギーに焦点をあてて、現状を分析。

ウクライナの現地各ニュース報道によると、ロシアは、ウクライナへのガス供給をすでにストップ。6月16日月曜日には、Gazpromからの最後通牒期限が切れている。夜通しの欧州共同体エネルギー委員会（EU-Energy Commission）の Günther

Oettinger

（ドイツ保守、キリスト教民衆党 CDU）らの調停でも、危機打開策は見出せておらず、緊張が、高まっている。ウクライナ国内では、

ガス供給にかかわらず、ウクライナ独自の路線を行く人々と、ロシア支持派およびロシア兵との武力衝突が繰り返されている。キエフ側は、「建設的な打開策がなく、このままで行くとウクライナの経済は大打撃を受け、しいては、欧州・ロシアとの関係が、さらに悪化することは、避けられない。」とロシアの Dmitrij Medwedew 首相に警告。

2006年と2009年に続き、第3回目のロシア・ウクライナのガス戦争になる。過去2回の危機の場合は、EU各国は、ロシアとウクライナの双方ともを支持しなかったが、今回EUのウクライナ支持を表明により、

Gazpromのトップ、Alexej Millerが、すでに、懸念しているように、「今回は、EU諸国へのガス供給に甚大な悪影響を及ぼす。」状態になってきている。

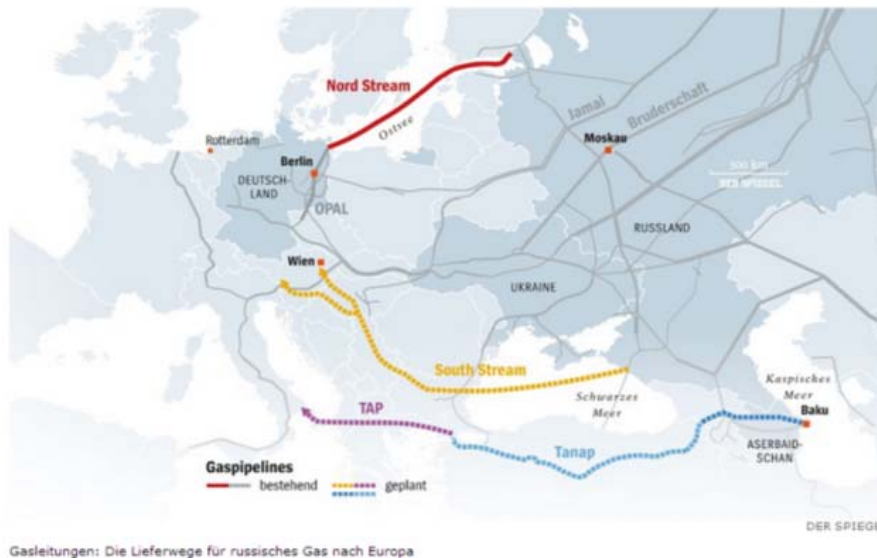
なぜ取引価格交渉がまとまらないのか？

Wiktor Janukowitsch 大統領政権下当時、ウクライナは、最終的にロシアとの取引価格 268 Dollar/1000m³ で落ち着いていた。その後、同大統領の失脚。Gazpromは、2段階にわたって 485 Dollar/1000m³ まで値上げ。現在、これ以上は、EU加盟国でさえも支払えない限界まで来ている。EU側本件担当の Oettinger は、打開策を検討。1年間

は、385Dollar/1000m³ で、取引との調停案を用意。

（ドイツの他国からの平均購入価格は、379Dollar/1000m³）。当然のことながら、ウクライ

ナは、これでも高すぎるとこのオファーを拒否。ロシア政府に対し、「この高額は、政治的価格構成」と強く非難し、公正価格をきちんと設定するべきと抗議。そこで、Oettinger は、326 Dollar/1000m³ で、さらに調停、提案。今度は、ウクライナ側は、了承。しかし、ロシア側の回答は、“нет(No)”。理由は、Gazpromの概算で、4.5Mrd. Dollar にのぼる、ウクライナのロシアに対する負債。そのうちの 1/3 は、2013年、11月12月のガス供給に対する未払い分。その他の 2/3 は、ロシアの見解では、2014年に入って4月5月の値上げ



実線は、現行のバイパスルート。点線は、建設プラン。ロシアは、トルコを通る、TAP/Tnap ラインを避けて、ブルガリア等、元ノ連下だった東欧ルート在今后、考えている。

に伴う差額未払い分とのことで、交渉はものわかれに終わった。

ウクライナの Janukowitsch 政権崩壊後、悪化しているロシアとの関係が、明らかにガス取引価格の値上げの背景になっているところ、EU 等をとおしてのロシア-ウクライナ間の政治的調整は、まだ、試みられる見通し。

なぜ、ロシアとウクライナのガス交渉が激化しているのか？

Maidan 事件以来、双方の関係は、悪化している。ウクライナは、最近に至り、クリミア半島黒海沿岸の油田の採掘権を喪失。ウクライナは、出来れば、この損失額をロシア側になすりつけたい気持ちでいる。

Wladimir Putin 大統領は、何百人もの TV 視聴の前で、ガス交渉にあつたっているウクライナのエネルギー担当大臣 Jurij Prodan は、汚職賄賂を行っているコメント。

“Prodan (продан)”は、ロシア語では、完売の意味。(Prodan といえば、売国奴との、ロシアの代名詞に解釈される。)

すでに破綻しているウクライナの国家財政。そんなウクライナにとって、ロシアからのガスは、国の経済を支えるエネルギー基盤、生命線である。ウクライナの GNP の 14% は、ガス輸入の支払いにあてなければならない。ウクライナで 1000Dollar に値する生産をするのに費やすエネルギーは、欧州中のどの国よりも高い。その背景は、非常に効率の悪い時代遅れの工作機械をまだ使用にしているという驚く状況にある。

ドイツについて、トルコ・イタリアが、Gazprom の重要な顧客となっているが、ロシアからのガス・パイプラインの 60%が、ウクライナ領土内を通過、ウクライナは、ガス供給の重要な土地権をもっている。

ロシアの今までの安い取引価格とは？

ロシアの政治では、ガスは、長いこと政治問題の対象ではなかった。すでに崩壊したウクライナ Janukowitsch 政権に対してモスクワは、いくらかの割引を保障し、比較的安価で取引が成立。その代償として、ロシアを後ろ盾としたウクライナの政治安定を維持。具体的には、黒海沿岸のロシアの油田採掘権を延長、また、その一方で、2013 年ウクライナに EU との協定も認めさせていた。

2014 年 2 月 22 日、ロシアとの汚職の疑惑がある Janukowitsch 政権の崩壊。その後設立したロシアに批判的な、いわゆる Maidan 政権に対し、ロシアは、引き続き低価格で、取引に応じていた。しかし、その陰で国際法観念違反するロシアのクリミア半島の占領で、この油田権獲得を正当化してしまった。このような動きの中、いままでは、控えていた EU と USA が、ウクライナの後ろ盾となり、ウクライナ国内の反ロシアの動きに拍車をかけてしまっている。

欧州にとって、このガス戦争の影響は？

10 人十色の声：政治家たちのなかには、ロシアのガスに頼るなという考えの人もいる。しかし、増え続けるエネルギー需要。Pazprom から EU への総輸出量は 2013 年には、30%増大している。2012 年の増化率は 26%。そして、EU への輸出量の約半分は、ウクライナ経由である。仮にウクライナ経由ガス配給が遮断されたとしても、中期的には、Gazprom は、別ルートでの配給を EU に保障はしており、それほど影響はないというのが現状。

ドイツは、バルト海の Nordstream-Pipeline 経由で、ウクライナ系経由分を代替することが出来ると見通しを立てている。ドイツ連邦経済省によると、北側の同ルートは、現在輸送化脳容量の 2/3 を使っているのみで、ウクライナ経由分の配給を代替することは、十分に可能と見ており、また、夏は、

ガスの消費量が少ないので、全体として、バランスが取れるとしている。しかし、欧州内の需要がさらに増え、ロシアからのガス輸送総量を増やさなくてはならなくなると問題は、一気に深刻化する。

先のガス戦争は、2009年の冬のまさなかであったため、危機感が高かった。当時、EUのために自国をとるガスパイプラインから、ウクライナは、いくらかのガスを抜き取ってさえいた。そのため、南欧は、暖房が出来ず、パニックに落ち込んだことは、記憶にまだ新しい。

EUのガス貯蔵タンクは、現在満タン状態。ドイツの貯蔵量は、23 Mrd m³で、貯蔵可能容量の2/3を貯蔵している。これに比べ、ウクライナには、12 - 14 Mrd m³の予備が貯蔵されており、何週間かは、最悪の事態が起きた場合は、これで、持ちこたえることが出来ると Oettinger は、コメント。今後のウクライナ情勢で、今年の冬のガス供給量の問題の深刻さが、決まる。

今後の展開は？

EU-CommissionのOettingerは、今月6月もさらに交渉再開・続ける意向だが、おそらくは、国際法に基づく調停法廷によって決着をつけるとの見通しも出てきている。Gazpromが、Stockholmの国際仲裁機関へ、今回のウクライナでの問題を提訴。その直後に、ウクライナのコンツェルンNaftogazが、あまりにもロシアの価格が高すぎると、同機関に提訴。ドイツのガス関係の専門化Roland Götzによると、現在のところ、ロシアの方が、有利なポジションにあると見ている。

見逃させないEU・ブルガリア・ロシアの駆け引き

ロシアは、ウクライナの近隣諸国のひとつ、EUに加盟しているブルガリアへのアプローチを非常に活発化させ、ブルガリアで大きな経済影響力を持つ、Swetan Wassilew

とのつながりを強めている。同氏のKTB-Bankは、ブルガリアのエネルギーセクターを牛耳っている。いうまでもなく、GazpromとWassilewとのつながりは、強く、莫大な建設費用が見込まれるブルガリア経由オーストリアまでのガスパイプライン、South Streamの実現をロシアと、いかにしても進めようとしている。

しかし、これは、EU-Energy Commissionでドイツ保守キリスト教民主主義(CDU)出身のOettingerたちの意向とは、反する。一方、モスクワに傾向しているブルガリアの社会主義者たち、例えばSergej Stanischewは、EUの社会民主党のトップ。EUでは、ドイツ出身のMartin Schulz (SPD)とも大変親しく、このチャンネルを通し、South Stream建設支持のアプローチをかけており、EU内に議論を醸し出している。

ブルガリアの無所属、Rossen Plewneljew大統領は、ドイツ・ベルリンで、外務大臣Frank-Walter Steinmeier (SPD)を公式訪問。Plewneljew大統領は、中立な立場から、隣国ウクライナの現状と、ブルガリア国内にもみえる、急速に西側路線に走りすぎる動きを懸念。こうした動きが、Putinが、再び、ブルガリアをはじめとするバルカンを不安定にし、これを機に、再び旧東欧を支配下におさめようとする要因のひとつと指摘。同大統領は、ベルリンで、対ロシアのEUの連帯には、同意。ただし「現在の対ロシア経済制裁だけでは、ロシアに対抗できない。歴史的重要な時期にさしかかっている。欧州の価値観、自由そして、欧州大陸の平和の運命がかかっている。今までの歴史、政治経済展開の経緯を深く理解した上での慎重な対応が必要」と言及。Steinmeier外相も同意見を分かち合った。ドイツの社会民主党 (SPD) の前ドイツ首相、Geahard Schröderは、Gazpromの子会社のトップメンバーであるが、ブルガリア

のソフィアに赴き、ブルガリア政権の EU 支持を促している。

このような、EU・ブルガリアの動きをみると、ウクライナの内戦の行方に、バルカン諸国の運命がかかっているといえる。いや、ウクライナのみならず、バルカン諸国、また、ウクライナより、東の元ソ連に属していた各諸国の今後の動きも注目しなければならない。そして、言わずもがな、戦（いくさ）には、エネルギー資源獲得の問題が必ずつきまとうことを、ここでも新たに痛感せざるを得ない。

（小澤エネルギー研究所 Setsuko Schwarzer
22.06.2014）

（引用・参考資料）

Der Spiegel Benjamin Bidder, Moskau

www.spiegel.de/wirtschaft/unternehmen/neuer-gaskrieg-mit-russland-kiews-riskanter-milliarden-poker-a-975488.html

Der Spiegel Gerald Traufetter

Nr. 20/12.5.2014

Nachrichten aus ARD, ZDF, ORF,